

岐阜県立岐阜工業高等学校

学 校 長 長屋 千秋

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町 1700 電話 058-387-4141

1 会議の名称 岐阜県立岐阜工業高等学校 学校評議員会（第1回）

2 会議の構成 委 員 木村 眞弓 地域住民代表
近藤 隆志 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長（欠席）
杉山 広子 地域住民代表
東松 勝彦 株式会社光製作所 総務部長
長屋 博明 岐阜工業高等学校育友会会長
(委員名は五十音順)

学 校 側 長屋 千秋 校長
若松 卓郎 副校長
加納 義之 事務部長
下川 治 教頭(全)
藤田 正昭 教頭(全)
中田 卓生 教務主任
宮浦 英夫 生徒指導主事
本田 悟志 進路指導主事
岡田 春雄 工業教育部長

3 会議の目的 学校運営等について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会議の開催 平成26年7月1日(火) 13:15~15:30 岐阜工業高等学校校長室、他
委員4人と学校側9人が出席

5 会議の概要

<校長室>

(1) 開式

- ・ 学校長挨拶
- ・ 委嘱書交付
- ・ 自己紹介
- ・ 日程説明

<各教室・実習室>

- (2) 授業参観
 - ・課題研究（3年機械科）
 - ・電子実習（2年電子科）
 - ・デザイン工学実習（1年デザイン工学科）

<校長室>

(3) 本校教育活動の概要説明

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 本校の教育について | 学校長 |
| ② 学習指導について | 教務主任 |
| ③ 生徒指導について | 生徒指導主事 |
| ④ 進路指導について | 進路指導主事 |
| ⑤ 工業教育部の取組みについて | 工業教育部長 |
| ⑥ 定時制の教育活動について | 副校長 |

(4) 協議

岐阜工業高等学校に期待するもの、地域から学ぶこと

本校教育活動の概要

① 本校の教育について（学校長）

生徒一人ひとりが笑顔で登校し、安心・安全に活動できる学校づくりを目指している。

活動の三本柱（ものづくり、資格取得、部活動）を通して、「岐阜工業で学んで本当に良かった」「岐阜工業を卒業して本当に良かった」「岐阜工業のOB（OG）で本当に良かった」と皆が思ってくれる“満足度日本一”の工業高校づくりを目指すよう、職員にも呼びかけている。

就職に関しては、本校は多くの求人をいただき、地元への就職率は80%近くある。地元の産業を支えている学校であり、地域の伝統や文化を担っている若者を育てている学校であるという自負もある。

今後中学卒業生の急減期を迎えるに当たり、全ての学校が新たな学校づくりを模索する必要に迫られており、本校としても、一層地域の皆さんや中学生にとって魅力ある学校であり続け、現在の学校規模が維持できたらと考えて、様々な意見やアイデアを集約し議論している。

本日は、本校の存続・あり方についても併せてご意見をいただけたらと思っている。是非よろしくお願ひしたい。

②③④⑤⑥に関して、各分掌長、副校長より資料説明。

意見 1 笠松町に在住しているが、付近のグラウンドで岐阜工業高校の生徒が部活動の練習をしているが、皆楽しそうである。

自分の娘もこの学校を卒業しているが、先日職場の同僚の結婚式に出席した折り、新郎も笠工出身で部活動での多くの仲間が出席していて、大いに盛り上がったという話であった。部活動で培ったものは、その後の人生においても非常に大切なものとなり、支えになっていることも多くあると思う。

若者の一生懸命やっている姿を見てこちらも励まされ、地域の若者を見守っていききたいなという思いを強くした。

意見 2 ・授業参観で電子科の実習を観させていただくと、コンピュータの画面上で実習の処理がなされ、分からないところも少人数制であるから先生にすぐ対応してもらえ、感心して観ていた。この積み重ねがあるからこそ、卒業時には技術力もつき、就職にも反映され、引く手数多となっていくのだなと感じた。

・自分の子供は大学での実験などで泊まり込みも多く、レポート等の提出に追い詰められたりして、食事も満足なものをとらず、ストレスも加わって胃を痛めた。本校では食事の大切さを訴え、食育にも力を入れているという話であるが、子供もその重要性は身をもって感じている。知識としてあるということも大事なことである。さらに進めていってほしい。

・部活動に関しては、子供がこの学校へ入ったとき、言葉遣いが目上の人に対しても友達感覚で親として気になっていた。しかし部活動に入部後、先輩と接していく中で言葉遣いが正されていき、卒業後に大変助かったという思いがある。縦のつながりが日常で感じるということが出来るのも、部活動の良さであると思う。

・今子供が就職を考えるにあたり、英会話の重要性をますます感じており、高校での授業の中でも、英会話ということを一層意識した授業を行ってほしい。

意見 3 ・私どもの会社には、こちらの学校の出身者が50名ほどいる。大企業というわけではないが、大企業には大企業の良さがあり、中小企業には中小企業の良さがある。学校でもそういった違いを教えてもらえたら有り難い。

・高校卒業後、進学か就職か迷うところであるが、最終的には就職していくわけであるから、その通過点である高校時代に無目的に過ごすことと、就職ということ意識して学習に励むのとでは、大きな差が出てくる。

プロでもない限り、一生スポーツだけをやっているわけにはいかない。どこかで転換を迫られる日は来るわけである。最後には就職をしなければいけないし、そのためにはどうすればよいのかということ、学校教育の中できちんと

教えておいてもらいたい。勿論その中には礼儀作法ということもある。昨年度こちらの学校に研究発表会を観に来た折、生徒が挨拶をきちんとしてくれた。これには感動した。

いろいろな経験を積ませ、様々なアドバイスを行ってもらい、少しでもいい生徒を育てて社会へ送り出してもらえればと思う。

- 意見 4
- ・自分はこの学校の卒業であるので、自分の時とどうしても比較してしまうが、自分が入学した時、岐阜工業高の名前は全国で通用すると言われた。そんな学校に入学したことがうれしく思ったし、卒業して良かったと思っている。
 - ・学校へ来る機会は多くあるが、3年生は挨拶の仕方がうまいといつも感じる。高学年になるほどうまくなっている。1年生もうまくなる日を楽しみにしている。3年生がそういった姿を下級生に見せることで、1年生もやらなければいけないと感じ、いい伝統が受け継がれていくことになる。
 - ・岐阜工業に入学して良かったという話がでているが、現役時代に企業見学に行き、先輩に「会社に入って何が良かったですか」と質問したことがある。その時、「入って良かった悪かったではない。入って何をしたかということで、良かったか悪かったかが決まる」と言われた。そういった考え方っていいなと思った。自分の時と比べて、環境としては、生徒は非常に幸せである。色々な資格が取れる。研修にも行ける。様々な交流もある。多くの方策が用意されているが、生徒自身が色々なことに興味を持って、積極的に取り組んでいってもらえたら、もっともっと伸びていくことと思う。
 - ・就職に関しては、面接指導に自分も参加させてもらっているが、如何に自分をアピールするかということが重要になる。昨年度と一昨年度の生徒の研究発表を観させてもらった。そのとき思ったのは、中身は同じ程度であっても、発表の仕方でもこんなにも印象が違うのかと思った。
- 学校の名前も十分で、取り組んできたことも十分であれば、あとは如何にそれをアピールできるかということである。自分の考えをアピールする力を育てる取組みにも一層力を入れていてもらいたい。
- ・保護者の方には、学校にもっともっと興味を持ってもらいたい。育友会として、そんな取組みにも積極的に協力して、なにかできないかと考えている。

学校側 学校に興味を持ってもらう取組みは、非常に大事なことでと考えている。本校が取り組んでいる様々なことを、外部の人にどう伝えるか。HP を使ったの広報もしているが、日本一の工業高校が笠松町にあるというメリットを、笠松町でも活用してもらい、互いに高めあうための様々なコラボを笠松町と計画し、実施している。競馬場を使った部活動の練習、笠松駅の2階を利用した地域の小学生を巻き込んだものづくりの楽しさの発信、岐工サテライトキャンパス笠松、本校運動部が全国強豪校を招いてのスポーツ大会による町作り等々を通して、本校の良さを外部にどんどん発信していきたい。

6 会議のまとめ

今回（第1回評議員会）は、生徒実習の様子を参観後、本校の教育活動の概要を説明し、意見、提言をいただいた。

本校教育活動に関してご理解をいただき、一層の活動の充実を期待されたが、学校生活で身につけた成果を如何に発信するかということが、次の課題となる。

生徒自身が培ってきた能力を周りにきちんとアピールできるよう、表現力や発進力を身につけ、将来地域や職場のリーダーとして活躍できるように学校として応援していきたい。また、中学生や地域の方が、本校に興味や関心を持ってもらえるよう、様々な教育活動の情報発信を工夫していきたい。